

# 不 易 流 行

愛知淑徳学園理事長・学園長 小林素文

かつて、どの車にもあった地図帳がなくなり、ナビとなりました。人工知能の加速度的発達、目的地を設定すれば、自動運転でそこに行ける日も遠くないと予感させてくれます。

変化が激しく先行き不透明な今の社会に旅立っていく卒業生に、どのような言葉を贈ろうかと、最先端をいく企業のブログを検索し、次のような祝辞を述べました。

\*  
多くの皆さんが生まれた1996年に、高等専門学校がホスティングサービス会社を起業しました。その会社は今では東証1部上場企業へと発展しています。

創業者の社長はブログで、今の時代に大切なこととして「変化の中でしっかりと学び続け、色んな経験をする」とをあげています。これは日進月歩のネット業界では当然のことでしょう。  
しかし、それとともに、次のようにも述べています。「他の考え方を排除せず、

寛容かつ柔軟な考え方を続けなければ、この先、生き残れないのではないか」  
最先端のインターネット企業の若手40歳の社長が、生き残りに大切なこととしてあげた「他の考え方を排除しない寛容かつ柔軟な考え方」とは、まさに本学の理念「違いを共に生きる」です。

もう一つ例をあげます。近年急成長している広告クリエイター集団の会社のホームページに、活躍する社員のブログが紹介されています。  
その一人が次のように述べています。

「ソーシャルメディアの本質は「誰でもメディア」全ては個人につながっているのだから、「人の気持ちを大切に」を基本にしています。」  
この「人の気持ちを大切に」も「違いを共に生きる」につながります。  
時代は大きく変化しており、それに遅れることなく対応していくことは勿論大切です。しかし「違いを共に生きる」はいつの時代でも変わることがない大切な理念なのです。

どうぞ、本学の卒業生であることに自信と誇りをもって、社会に旅立つて下さい。

\*  
今から23年前、愛知淑徳大学が男女共学体制に移行した時に「違いを共に生きる」すなわち「性別・国籍・世代そして価値観の違いをこえ、お互いの共通項にも目を向けながら、お互いが生かし生かされ合う存在であると認めて生きる」という新しい理念を掲げました。  
それは学園の伝統精神に通じています。

お互いが生かし生かされ合う存在であることが実感できれば、感謝の心が生まれます。感謝の心で満たされれば、やさしさが生まれます。気取りもなく照れもない自然に醸し出されるやさしさ、すなわち「さりげないやさしさ」は、愛知淑徳学園に百十余年にわたり生き続けている伝統精神「陰徳」に通じるからです。

\*  
「不易流行」を調べると「不易とは永遠に変わらない伝統、流行とは時代とともに

に変化するもの。相反するように見える不易も流行も、ともに根源は同じ」とあります。

これを、愛知淑徳に当てはめれば、「違いを共に生きる理念（不易）を掲げて男女共学体制にした（流行）、それは学園の伝統精神である陰徳（不易）につながる」

こんなことを考えさせてくれる卒業式は、生徒学生にとつての大きな節目であるとともに、送る側にとつても、新たな気分を新入生を迎える節目でもあります。



長久手キャンパスの春